

三瓶山放牧地における糞虫相

島根県立三瓶自然館 皆木宏明

1. はじめに

糞虫とは主に糞を食べる食糞性コガネムシ類のことを指し、日本には100種類以上の糞虫が生息している。しかし糞虫の中でもその生態はさまざまであり、出現期、生息環境繁殖生態などが種によって異なっている。

三瓶山では過去の文献からこれまでに27種の糞虫が記録されている。また現在、三瓶山は国内で最大の糞虫であるダイコクコガネの県内唯一の生息地となっている。ダイコクコガネは全国的に減少傾向にあり、絶滅が危惧される種である。牧畜形態が変化している中で、三瓶山にはまとまった放牧地が残されており、糞虫にとって貴重な生息地となっている。

三瓶山で実施された既存の糞虫相調査としては鈴木（1994）があるが、10年が経過し現在の三瓶山の糞虫相や特にダイコクコガネの生息状況については不明な点が多い。

本発表は、島根県の平成17年度レッドデータ生物重点対策種調査業務で実施しているダイコクコガネを含む三瓶山の糞虫相調査について報告する。

2. 調査地と調査方法

調査は島根県大田市にある三瓶山東の原と西の原の2ヶ所で実施した。いずれも現在牛の放牧が行われている場所である。

糞虫相調査は各地点で1回の調査につき任意で糞塊5個を選び、糞塊内および糞下の糞虫を採集し種類と個体数を記録した。ダイコクコガネの生息調査については、放牧地内の糞をできるかぎり見て歩き、生息の有無を確認した。調査期間は2005年の8月から10月までの3ヶ月間である。

3. 結果

・ダイコクコガネの生息状況

ダイコクコガネは東の原では生息が確認されたが、西の原では確認できなかった。しかし東の原でも生息数は少ないものと思われる。

・東の原と西の原での糞虫相の比較

東の原に比べ西の原の糞虫相はカドマルエンマコガネが著しく優占し、種類構成に偏りが見られた。

・過去の調査との比較

1994年の東の原の調査ではカドマルエンマコガネ、オオフタホシマグソコガネ、フチケマグソコガネが優占種となっており、今回の調査でも同様の傾向が見られた。しかし、西の原では1994年には糞虫自体がごくわずかしか採集されなかったが、今回の調査ではカドマルエンマコガネが多く確認された。

文献

鈴木謙治（1994）三瓶山の糞虫相。三瓶山の昆虫相とその保全。島根県昆虫研究会。164-170。



ダイコクコガネ（♂）